



〇〇さんの日記

書く人にとっての日々の記録である日記。誰に見せるでもなく、ひっそりと綴られた言葉たちは、当時の出来事だけでなく、その場の空気や書いた人の心情までも私たちに伝えてくれます。誰かの日記、そっと開いてみませんか。

『トキワ荘青春日記－1954-60－』
(藤子不二雄A／復刊ドットコム／2016.12)



手塚治虫に憧れた仲間たちが次から次へと集まったトキワ荘。著者が「人生の中で忘れられない最高の時期」と言うトキワ荘で過ごした6年間がぎゅっと詰まった一冊です。当時の若者たちの衣食住の様子や熱気を感じることができます。

『穂高小屋番レスキュー日記』
(宮田八郎／山と溪谷社／2019.4)



学生の頃から穂高を訪れ、穂高岳山荘の支配人を務めた著者が、「人が人を救うのがごく当たり前」な穂高という世界で経験したことを綴っています。緊迫した現場の空気と、穂高を愛する人々の情熱が織りなす物語を、読むことで体感してください。

『過去六年間を顧みて－かこさとし小学校卒業のときの絵日記－』
(かこさとし／偕成社／2018.3)



絵本作家として長年活躍し、500点以上の作品を描いたかこさとしが、1938年、小学校卒業時につづった絵日記が、聞き書きとともにカラーで収められています。当時の学校生活がいきいきと描かれています。

『アダムとイヴの日記』
(マーク・トウェイン／河出書房新社／2020.1)



人類最初の男女アダムとイヴが日記をつけていた！ユーモアをまじえながら愛の本質を描いた名著。美しく重厚感のある挿絵も多数掲載されており、想像の膨らむ一冊です。

『アインシュタインの旅行日記
－日本・パレスチナ・スペイン－』
(アルバート・アインシュタイン／草思社／2019.6)

アインシュタインが、1922年10月から1923年3月までの半年間、日本、パレスチナ、スペインを旅したときの日記が全編網羅されています。自身の行動を淡々と記録した日記の中に垣間見える、他者を観察する鋭い眼、科学者として見た自然の描写、そして口には出さない本音。アインシュタインという一人の人間を感じられる一冊です。



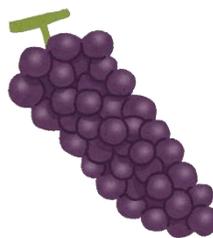
新連載！

書名でしりとり

タイトルのおり、書名の最後の1字で次の本へつなげていく企画、第1回目の文字は、「ちらっと」の「と」です。

『トイ楽器の本
－眺めてかわいい、弾いて楽しい
魅惑の音色たち－』
(良原リエ／ディスクユニオン／2018.4)

チープな音色に不安定なピッチ感、でも憎めない、なんだか楽しい、かわいい子ども用の楽器“トイ楽器”を紹介した本。弾いて楽しい、聴いて楽しい楽器103種をオールカラーで掲載しています。サンプル音源が視聴できるQRコードもついているので、実際にどんな音が鳴るのかぜひ聴いてみてください。



ちらっと



Chiratto
Vol.30

2021年8月-2021年9月号

特集1 全館統一展示 身近な自然

特集2 〇〇さんの日記

連載 書名でしりとり

お知らせ 西東京市図書館からのお知らせ
FM西東京で紹介した本

全館統一展示

『東京発半日ゆるゆる登山』 (山と溪谷社／2019.9)

東京区部から近郊まで、半日で行って登って帰ってこれる山を週ごとに50コース紹介。順繰りに回るもよし、組み合わせて縦走するもよし、寝坊しても間に合う近場の山を気ままに歩いてみませんか。

『生命の森明治神宮』 (藤岳彦他／講談社／2015.4)

何も無い荒地に人の手で作られた森は、一世紀を経て数多の貴重な生物が暮らす都内有数の豊かな生態系となりました。明治神宮遷座100周年公式写真集として、森の多様な命を紹介します。

『コケリウム —コケでつくるはじめてのテラリウム—』 (陶武利／笠倉出版社／2018.10)

盆栽の脇役とだけ見られがちなコケにも様々な種類があり、工夫次第で主役だって務まります。コケのテラリウム、コケリウムに挑戦したいビギナーに向けたお役立ち情報が、わかりやすい写真とともに掲載されています。



身近な自然



令和三年七月一日から
八月三十一日まで

『消滅絶景 —もう見られない世界の美しい自然—』 (ナショナルジオグラフィック社／2020.6)

こんな場所があったなんて！
4日で消えた大河、探検家の手紙を託された木—いつの間にか消えてしまった美しい自然、消えてしまうかもしれない場所の記憶を巡ります。危機を脱した場所も収録されています。

『身近な鳥のすごい食生活』 (唐沢孝一／イースト・プレス／2020.3)

軽量化が至上命題である鳥の食生活は、驚きの創意に満ちています。飛翔するカロリーを確保するために人間すら利用する、鳥たちのあの手この手の奥深さに、都市の鳥と自然を長年観察してきた著者が迫ります。



『英国貴族、領地を野生に戻す —野生動物の復活と自然の大遷移—』 (イザベラ・トウリー／築地書館／2020.1)

赤字続きの農場をやめたら翌年には生物が溢れかえり、野牛や野生馬を放つと絶滅危惧種まで復活…研究者も驚く、最先端の環境復活プロジェクトを描いたノンフィクションです。

西東京市図書館からのお知らせ 制限付き開館のご案内

当面利用できるコーナーに制限があります。また、ご来館にあたってはマスクの着用と、できるだけ短時間でのご利用をお願いしています。詳しくはお電話または図書館ホームページでご確認ください。

F M西東京で紹介した本

『植物のかしこい生き方—欲張らず、むだに戦わずしたたかに生きる知恵—』 (田中修／SBクリエイティブ／2020.5)

こちらは大活字本です。植物が生きるには、土地や太陽の光、タネを運ぶ虫の奪いあいなど、多くの競争があります。そんな競争のなかでも環境に抗わない工夫や、苦難に立ち向かう準備などによる驚きの生きるコツがあるそうです。私たち人間もそこから学べるかも？

『プロが教える朗読上達トレーニング —心に届く表現力向上メソッド—』 (葉月のりこ／メイツユニバーサルコンテンツ／2021.4)

口の健康は心身に影響があるとのこと。口を動かす一つの方法として声を出すということが挙げられます。朗読もその一つ。この本では朗読の上達方法・楽しみ方について具体的に教えてくれます。人のおしゃべりが減っている今の状況、声を出して読んでみるのもストレス発散になるかもしれません。

発行：西東京市図書館
<http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>